

Book Review Corner

ブックレビューコーナー



① 町田健 編著

『言語学のしくみ』

(研究社)

本書は『シリーズ・日本語のしくみを探る』の第3巻です。このシリーズは新しい視点で日本語を見直しています。しかし第3巻では日本語の枠にとどまらず、言語学とは何かを判りやすく解説しています。基本的にQ&Aの形式になっていますが、解説の部分は幅広い知識が簡潔明瞭に記されています。本文の注釈が、ページのすぐ下にあるのも心憎い配慮です。巻末には「さらに勉強したい人のための参考文献」もあり、まさに外大生の必読書です。

810.8-Shir-3 (T.F.)



② 安西徹雄 著

『シェイクスピアの名せりふ100：英和対訳』

(丸善)

シェイクスピアほど歴史に残る劇作家は他にいないでしょう。シェイクスピアの劇は、人々の心を惹きつけるものがあります。その一つは、印象深いせりふにあるのではないのでしょうか。

本書では、シェイクスピアの劇に出てくるせりふの中で、「舞台」、「人間」などのキーワードで選ばれた100のせりふとその解説が紹介されています。皆さんも、言葉を通してシェイクスピア劇の世界を覗いてみませんか。

932-Anz (S.I.)

③ 亜洲奈みづほ 著

『新しい台湾いろいろ事始め』

(凱風社)

本書は、中国語でアジアを意味する「亜洲」をペンネームに取り入れるなどアジア系の作家として活躍する著者が、アジアNIESの優等生であり、日本からの年間旅行者が100万人を越える国台湾について、語学留学した時などに取材した現在の台湾事情も含めて紹介した書です。

内容は、台湾を理解するためのキーワード127を「味わいのくに」、「ゆとりのくに」、「みどりのくに」、「美のくに」、「このくにの歩み」の5つのテーマに分けて紹介したもので、台湾に興味のある方や旅行を考えられている方などの必読の一冊です。

915.6-Asu (N.I.)



④ ロバート・マーシャル 著

遠藤利国 訳

『図説モンゴル帝国の戦い：騎馬民族の世界制覇』

(東洋書林)

ユーラシアの草原を縦横無尽に駆けまわり、大帝国を築き上げたチンギス・ハン一族。蒼き狼チンギス・ハンの子孫たちは、中国、中東、ロシア、ヨーロッパへと征服の範囲を拡げ、繁栄を誇った大都市も徹底的に殺戮、略奪、破壊され尽し、定住社会の文化や伝統、宗教的威信などを完全に断ち切ってしまった。本書は、この騎馬遊牧民・モンゴルの興亡を中心に、11～14世紀の世界の動きをダイナミックに描いた歴史絵巻として大変興味深いものです。

222.6-Mar (T.K.)